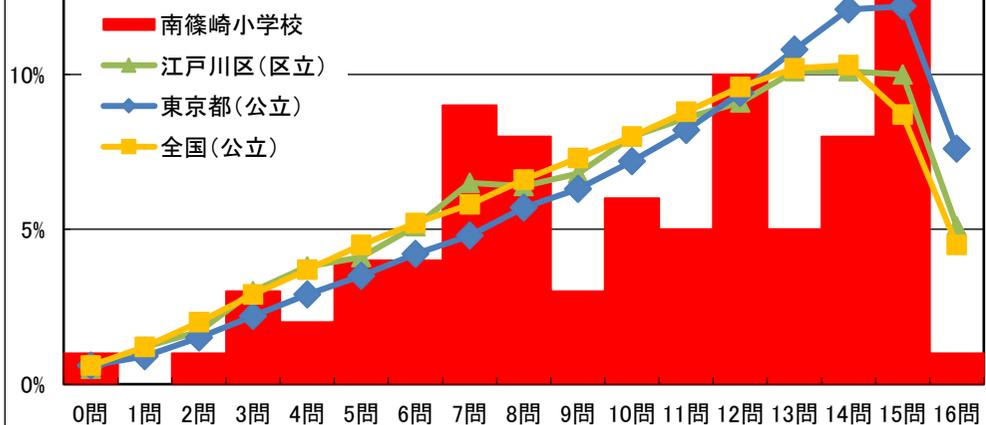


# 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 南篠崎小学校

## 正答数分布

平均正答数

南篠崎小学校 : 10.2 問  
 東京都 (公立) : 10.9 問  
 江戸川区 (区立) : 10.3 問  
 全国 (公立) : 10.1 問



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

算数	四分位			
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
南篠崎小学校	17.3	33.4	26.8	28.5
江戸川区 (区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都 (公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国 (公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

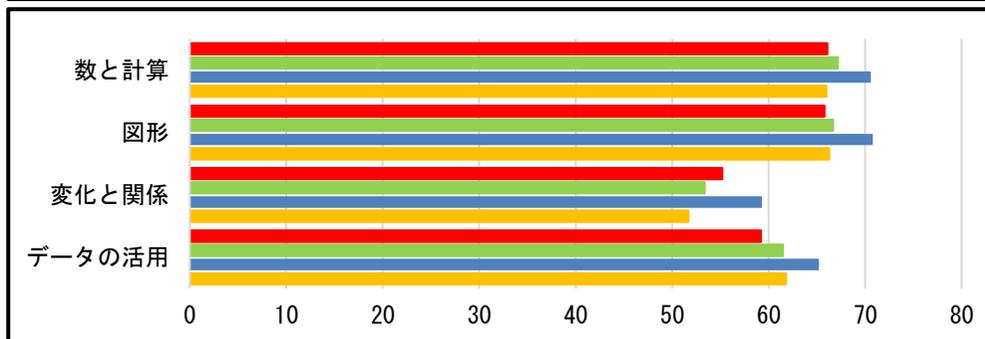
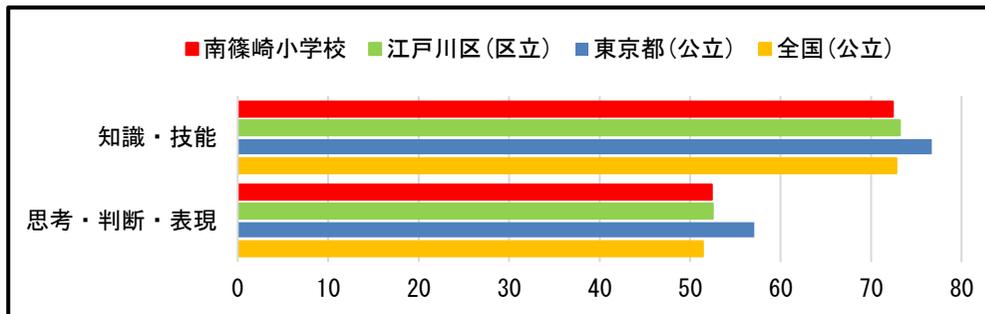
【平均正答率の差】

南篠崎小学校	64%
江戸川区 (区立)	64%
東京都 (公立)	68%
全国 (公立)	63.4%
都との差	4ポイント

%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

## 「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

- 「学習指導要領の領域」の、『B 図形』『D データの活用』において、全国又は東京都の平均と比べて正答率が低い。図形では、角柱に関する誤答が多かった。また、データの活用では、グラフから読み取る問題やデータをもとに問題解決を図る問題で誤答が多く見られた。日常の授業でも表やグラフに触れさせる機会を増やし、グラフや表が表していることを適切に読み取れるように意図的に指導をしていく。
- 「知識・技能」と比べると「思考・判断・表現」に関する正答率が全体的に低くなっているため、普段の学習から課題解決や問題解決の際に、自分の考えを書いたり伝えたりできるような指導を一層目指す。